



優 秀 賞

設計部門



横浜市庁舎緑化再整備 ～街のリノベーション～

株式会社グラク

北川明介・井野貴文・岸井悠子

横浜市は、市域の緑の減少に歯止めをかけ、緑豊かなまち横浜を次世代に継承することを目的とし、「横浜みどりアップ計画」を策定した。この計画では、公共施設の緑化を「市民が実感できる緑をつくる」という取組みとして位置付けている。

本業務の目的は、この公共施設の緑化の主要事業として、くすのき広場や横浜市庁舎の足元を含む周辺の緑の量と質向上を

図るための再整備計画・設計を行うことであった。

横浜市庁舎が位置する街区は、関内地区のネットワーク街路の拠点であり、「みどりの回廊軸」としても重要な空間である。また、くすのき広場や横浜市庁舎の足元の造園空間が整備されて40年以上経ち、老朽化が進行していたため、くすのき広場を含めた市庁舎周辺の緑化再整備が課題となっていた。

本計画・設計では、社会が熟成し、市民の価値観が多様化する時代を踏まえ、『緑化再整備を通して、街の価値を再構築（リノベーション）する』をミッションとし、緑の力（ポテンシャル）を活かした3つのリノベーションの提案を行った。

作品概要

作品名—— 横浜市庁舎緑化再整備～街のリノベーション～
所在地—— 横浜市中区港町1丁目1番地
発注—— 横浜市環境創造局公園緑地整備課
設計—— 株式会社グラク
監理—— 横浜市環境創造局公園緑地整備課
施工—— 関内駅前：富士造園株式会社
横浜公園側：株式会社新正園
くすのき広場：株式会社サカタのタネ
設計期間—— 2012年10月～2014年8月
施工期間—— 2013年9月～2015年3月
規模—— 約1.0ha
主要施設—— ふとんかごスツール、サイドテーブル、ふとんかどウォール、緑化ルーバー

作品評

本作品は、「くすのき広場」を含む市庁舎周辺の、緑の量と質の向上を図るための再整備であり、市の新施策を受けて実施されたものである。しかし、こうした背景を含めても、横浜市都市デザイン室を代表する仕事（1974年）である「くすのき広場」のリ・デザインに関わることは大変な勇気を要することであり、本作品はこの重点に見事に応え、緑の力を活かした、街のリノベーションに成功している。元の骨格デザインを活かしつつ、ガーデニングの手法を活かした多彩な緑のデザインと、基軸であるレンガを用いた様々な工夫とディテールとが、現代という時代を表現している。色とりどりの花や緑が楽しめる空間へと一新され、お出迎えと通行と交流という当初目的の機能のみならず、手入れへの参加という新たな行動を生み出した点も評価され、優秀賞となった。

設計部門



①くすのき広場の多様な植物を立体的に楽しめる植栽デザイン ②関内駅前空間として来訪者を楽しませる季節で変化する植栽デザイン ③横浜公園側歩道の通行を楽しくする周辺施設と一体感のある緑づくり ④緑に囲まれながら、グループでも利用できる休息空間 ⑤ふとんかどウォール ⑥彩りある草花とトレリス ⑦エディブルなナツミカン植栽

多様な緑によって楽しみ、交流を生み出す広場の提案

従前のくすのき広場の遅いクスノキ並木、横浜市庁舎の柱芯の軸線に合わせた舗装パターンや照明灯等の施設が織り成すリズムカルな空間を活かしつつ、花や葉の色、形、草丈の違いなど多様な植物が目飛び込み、身近に感じられ、会話が弾む空間にリ・デザインする。

季節で表情を変える緑によってお出迎えする玄関口の提案

関内地区の玄関口として、来訪者を気持ち良くお出迎えするため、季節に呼応して表情を変える落葉高木、多樹種を混植した生垣（混垣）、地際の彩りを豊かにする一年草や宿根草等を配植した植栽とする。駅前空間として、滞留しやすくなるよう安

心して腰を下ろせ、待ち合わせ中も植物を楽しめる空間とする。

風格のある緑によって気持ち良く通行できる歩行空間の提案

横浜市庁舎や横浜公園が醸し出す趣きある通りにふさわしい緑とするため、港に向かう緑の軸線の一部として、横浜公園と呼応した植栽樹のデザインと草花を多用して、歴史を感じさせる彩り豊かな緑が連続していく通り空間とする。

緑の力を活かした空間に再構築したことで、造園業者への委託による植栽管理だけでなく、市職員自らの手による、水やり、花がら摘み、雑草除去等のきめ細かな植栽管理を行うきっかけをつくり、質の高い緑花空間を提供し続けている。